

2014年度の取り組み

○ 2010年度に策定された「2020年度を到達点とする環境目標」に基づき、全社において廃棄物の削減活動を展開しています。2014年度は、本社の再資源化移行及び廃棄物発生量の削減取り組みの結果、2013年度に0.20tあった廃棄物の最終埋め立て量を、0.06tにまで削減することができました。

また、法令遵守状況をより一層強固にするため、グループ各社に対し、廃棄物処理法および不適正事例を解説する説明会を実施しました。

最終埋め立て量の推移



廃棄物ゼロエミッションの維持・向上

○ ゼロエミッションの維持については、サーマルリサイクル^{*1}からマテリアルリサイクル^{*2}への転換、有価物としての売却など、質的向上をさらに推進していきます。

2014年度もこれまで有価物化できなかったもの(廃シンナー、ポリドラム、石油缶など)の有価物化を引き続き実施しました。廃棄物を再資源化する取り組みも進んでおり、ゼロエミッション活動の質的向上が進展しています。

^{*1} サーマルリサイクル: 廃棄物を単に焼却処理せず、焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用すること。
^{*2} マテリアルリサイクル: 廃棄物を利用しやすいよう処理し、新しい製品の材料として使用すること。

2014年度各サイトの取り組み

○ 廃棄物の最終処分量ゼロを目指すために、各サイトにおける質的向上活動だけではなく、廃棄物自体の発生量を削減する活動など、各サイトで以下のような独自の取り組みを行っています。

① 栃木

- 排水処理工程の薬剤注入量の調整や脱水工程の見直しを継続的に改善し、汚泥発生量を更に削減
- 溶剤系廃塗料・廃スラッジ・洗浄溶剤・脱溶剤を有価物化し、工場全体で前年比約40%の廃棄物を削減

② 千葉

- 分別廃棄による削減活動及び効率化実施

③ 東京

- 廃シンナーを再生シンナー用に売却
- 鉄屑、アルミ、石油缶、飲料缶を有償売却
- 宅配便のクッション材のリサイクル
- 蛍光灯のレンタル化、使用済み保護具等の回収制度活用

④ 愛知

- ポリドラムを有価物処理できるようにした

⑤ 大阪

- 廃プラスチックの分別強化により、再資源化比率を向上させた

⑥ 本社

- 分別によるリサイクルと、産業廃棄物による埋立処分量の削減

⑦ 岡山

- 工場が発生するライン、設備洗浄水を部門内再利用し搬出量の削減
- ラベル作成時に発生する端白紙台紙を集め、産廃搬出用ラベルとして利用

⑧ 広島

- 廃油(廃塗料、廃溶剤)の有価物化
- 一部溶剤のリサイクル化

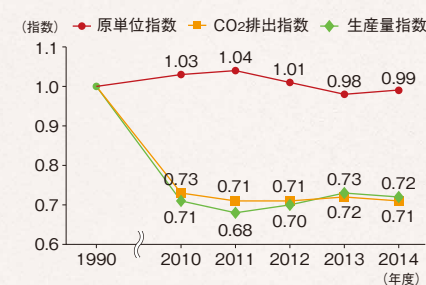
2014年度の取り組み

○ 経営ビジョンと「2020年度を到達点とする環境目標」にのっとり、低炭素社会の実現に向けた操業におけるCO₂排出量削減活動を続けています。

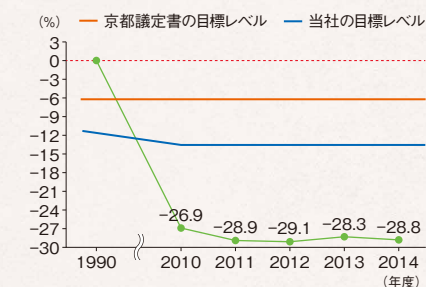
その結果、2014年度は、CO₂排出量/生産量原単位が0.1379という目標に対して、0.1375と目標を上回る数値を達成することができました。

この数値は、コンプレッサー、ボイラー等の運転条件の変更、厳格管理、省エネタイプの機器、備品への変更、空調温度の厳格管理、消灯、パソコンOFF等のこまめな管理など、各事業所、工場での日常の地道な活動により、達成することができました。

1990年度比 CO₂排出量関連指数の推移



1990年度比 CO₂排出量関連指数の推移



2014年度各サイトの取り組み

○ 2014年度に、各サイトにおいてCO₂排出削減のために実施した代表的な施策を紹介します。

① 栃木

- 空気圧縮機の設定圧見直し、圧縮空気漏れ修理
- 老朽照明の順次LED化
- 老朽駆動ベルトの順次省エネタイプへの変更
- 倉庫空調機更新(新機種へ更新し成績係数向上)
- BF4排水の非加熱分解処理への変更。(蒸気ボイラー使用削減)

② 岡山

- 溶解工程での攪拌時間見直しによる電力削減
- 保温庫の夜間ヒーター運転開始時間見直しによる電力削減
- 17時以降、プリンター電源をオフにし、複合機に集約

③ 広島

- コンプレッサー2基更新(高効率型採用)による省エネ
- 工場照明一部更新(LED採用)による省エネ
- 休憩時間の消灯
- 空調温度(夏季28℃、冬季20℃)の遵守
- 塗装など大型機器使用の集約可動による電力削減
- こまめな消灯

④ 愛知

- 冷温水器(第2技研棟)の効率的な運用によるガス使用量の削減
- チラー設備のインバーター化による電力量削減
- 消灯、パソコン、冷暖房のこまめな管理

⑤ 千葉

- 各課省エネ目標を設定し毎月の省エネ会議と省エネパトロールで進捗確認
- 夏季節電対策(エアコン室温28℃以上の厳守、エアコン、チラー熱交換器フィン洗浄、チラー水スライム・スケール対策実施、評価機器停止、屋根散水など)
- 冬季節電活動(室温20℃管理、セーターひざ掛けなどの徹底)
- デマンド管理の徹底(放送にてエアコンなど停止)
- エア配管、蒸気漏れ対策
- 樹脂媒体ボイラー運転条件変更、ガス使用量監視等

⑥ 大阪

- 廊下の照明をLEDへ変更
- 廊下の照明を人感センサーで点灯
- 工場の室外機を葺管で囲い効率アップによる消費電力削減
- 浴室換気扇の自動運転化により、ムダ運転を削減

⑦ 寝屋川

- セントラル式ボイラーを細分化更新、1系統(2台)合計2600kg/hを、4系統(4台)合計1100kg/hに変更。ガス消費量が夏場80%削減、冬場60%削減となった

⑧ 本社

- エントランスホールのLED化
- 男女トイレのLED化
- 空調吹出し口の風量調整制御(VAV)の交換

⑨ 本社

- 空調温度(夏季28℃、冬季19℃)の遵守確認パトロール(3回/年)
- CO₂排出量報告を作成し、各部門のエネルギー使用を抑制
- ハロゲン電球、蛍光灯をLEDに更新
- ガス発電機の運用見直し
- 各種空調機の不具合改善



環境負荷の低減につなげています。

廃棄物の発生抑制に努め、

生産活動における

廃棄物の削減と ゼロエミッションの 取り組み

2014年度の目標

2013年度より、
全社RC目標としては終了し、
恒常業務として維持監視する

地球温暖化防止に向けて、
各サイトごとにそれぞれ
CO₂排出量の削減に向けて日々、
努力を続けています。

地球温暖化 防止への 取り組み

2014年度の結果

CO₂排出量/生産量
原単位0.1375

2014年度の目標

CO₂排出量/生産量原単位について、
2013年度目標目標値(0.1393)を
1%削減し0.1379とする